

＼ 患者さまとご家族に安心と信頼をお届けするマガジン ＼

はつらつ通信

2018.11.1 November vol.151

発行：医療法人北志会 札幌ライラック病院 編集：はつらつ通信局

9月6日、震災ドキュメント

長時間停電のもと、患者さまを守るために

9月6日の北海道胆振東部地震により被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

ご存じの通り、同日午前3時7分に起きた地震により、北海道全土にわたり大停電が発生しました。停電直後に復旧まで1週間以上を要するとの発表があり、多くの方が困惑され、今できることをしようと行動されていました。当院の目の前にあるホームセンターには、じりじりと太陽が照りつける中、乾電池やガスボンベなどを買い求める長蛇の列ができていました。赤ちゃんのミルクをつくるお湯を求めて当院にいらしたおとうさんもいらっしゃいました。

その当院でも、停電と同時に駆動した非常用発電機を維持するために、職員たちが今できることを検討し懸命に努力していました。人工呼吸器や人工透析の患者さまにとって長時間停電は命に直結する深刻な事態です。発電機の燃料備蓄は600リットルで約24時間分でしたが、職員をはじめとする関係者の献身的な働きにより、翌7日午前9時ころに通電するまでのおよそ30時間を入院患者さまに大きな影響を与えることなく乗り切ることができました。今号ではその様子を森永万佐夫事務長に聞きます。



信頼のマンパワー。課題は情報の収集

震災の日、当院には人工呼吸器装着の患者さまが73名入院されていました。人工呼吸器はそれぞれ非常用バッテリーを備えています。給電できるのは1時間程度。このバッテリーに頼ることのないように非常用発電機を動かし続けることが当日の最優先事項でした。

事務職員が中心となり発電の燃料確保に奔走

「とにかく患者さんの命を守る」と職員全員が必死でした。読売新聞の震災記事にも掲載された森永事務長のコメントです。公共交通機関が止まり、駆け付けた職員の中には自宅マンションのガレージが電動トビラだったため、1時間近く自転車こいで来た人もいました。



地震当日、向かいのホームセンターには買い物客の行列

病院の水やガスの供給に問題はなく、電話や院内PMPも使用可能。1階診察室天井に軽い漏水があるほかは施設設備に大きなダメージは見つからず、非常用発電機の燃料となる軽油の確保が最優先となりました。

ガソリンスタンドも停電でポンプが動かず、営業している店は長蛇の列です。職員が手分けして何軒も回ってポリタンクで軽油を買い集め、6日午前中に200リットルを確保。これにより発電機停止までのリミットが7日午前3時から午後2時まで延びました。翌日朝には自衛隊や取引業者からも軽油が到着。しかし、連携する医療機関からポリタンクやおむつなどを融通してもらったものの、備蓄容器不足でタイミングが合わない時はせっかく届いた軽油を断らざるを得ませんでした。



軽油を届けてくれた自衛隊の車両

DMATと転院を相談。移送直前に電気復旧

震災後は行政や医師会、北海道電力、そして災害派遣医療チームDMATと連絡を取っていました。網渡りの燃料確保に加え、初めての発電機長時間駆動の不安もあり、DMATと相談して状態の悪化が懸念される患者さまの転院を決めました。



青森から派遣されたDMAT隊員の看護師。救急車両も海を越えて来道

患者さまはそれぞれ病状もケア内容も異なりますが、パソコンが動かないためその方を担当する職員が手書きで申し送りを用意。受入先の札幌医科大学病院へ移送するためDMATが到着し、ストレッチャーの患者さまを救急車に乗せようとしたときに電気が復旧しました。「職員みんなが安堵しましたね」と森永事務長は当時を振り返ります。

情報の重要性を再確認。受信信法を改めて検討

電力供給のほかにも対処しなければならぬことがたくさんありました。医師や看護師はなんとかシフトを維持できましたが、保育所や学校が休みになったため一部職員は子連れで出勤。対応するため、リハ室を二次託児室にし、栄養科ではお子さんの食事を用意しました。軽度だった漏水は翌日に滝のような水量となり、来院した外来の患者さまは面談室で診察。職員はパソコンやレントゲン写真などが水をかぶらないよう備品移動に追われました。



さまざまな職種のDMAT隊員。15名ほどのチームで患者さま移送の準備

食事は、電気調理機器こそ使えませんが、非常用米で代用するなどの工夫で通常に近い状態で提供。経営栄養の患者さまにも備蓄品で対応できました。「最も重要だと感じたのは情報の収集と発信。職員の連絡網はありましたが、今回のような場合は機能しづらいと分かりました」と森永事務長。電源の増強のほか、病院の状況を全職員に斉に伝える方法なども検討していく予定です。

時系列の動き

9月6日(木)

03時 地震発生
07分 停電、非常用発電機駆動
午前中 関係職員連絡会議、管理者会議
職員が200リットルを確保
診察室に漏水、修繕業者が点検

9月7日(金)

07時 自衛隊から
30分ころ 軽油200リットル受け取り
(定期的な補充を依頼)
DMAT、先遣の医師・
看護師と打ち合わせ
07時 配送業者から
40分ころ 軽油200リットル受け取り
08時ころ 配送業者から
軽油200リットル
08時ころ DMATチーム到着、移送開始
通電
午前中 余震により漏水被害拡大

非常用発電機の 予想停止時間

7日 03時

7日 14時

8日 01時

8日 12時

備蓄容量
オーバー

災害派遣医療チーム DMAT

DMAT(ディーマット)はDisaster Medical Assistance Teamの略称。トレーニングを受けた医療職や事務職で構成され、災害急性期に活動できる機動性を備えたチームです。阪神・淡路大震災の初期医療体制の遅れを教訓として2005年に発足。要請を受け、全国各地から登録隊員が災害地に派遣されチームで医療支援にあたります。

「健康フェアとよひら」に今年も出展 健康づくりの地域交流

9月30日(日)午後1時から豊平会館の体育室で「第9回健康フェアとよひら」が開催され、当院は今年も血圧測定と栄養相談のブースを出展しました。また、2階の大広間では総合支援センターらいらっくの佐藤純吾副センター長が講師となって抗重力筋のトレーニングを指導。どちらも多くの方の参加があり、健康に関する質問や心配事などさまざまな声を伺う好機となりました。



医療法人北志会

基本理念

私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、よりよい医療サービス実践のため日々研鑽します。

基本方針

- 一、患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 二、専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 三、職員は、責任と誇りをもち、日々学習し、専門職としての使命を果たします。
- 四、職種・職域を超えたチーム医療を目指します。

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

5病院合同の「健康ランチコース体験会」に初参加 ホテルランチを楽しむ糖尿病教室

ホテル料理長と 管理栄養士が考案



「健康ランチコース体験会」は、ホテルオークラ札幌の料理長と管理栄養士が共同考案したコース料理を味わいながら、糖尿病についての知識を深める、新しいタイプの糖尿病教室です。さっぽろ二十四軒病院と手稲いなづみ病院が合同で年に1度開催してきましたが、今年は他病院にも声をかけ、当院を含む計5病院が参加しました。



料理がサーブされる盛況の会場

参加主体は糖尿病の患者さまや糖尿病予備軍の方とご家族で、毎回参加されている方も多いとのこと。初参加の当院は志田勇人理事長や大島美奈子管理栄養士など職員のみ参加しました。



病院紹介で壇上に立つ志田勇人理事長

楽しみにされている 常連の患者さまも

コース料理は、黒皮カジキのカルパッチョ仕立てから始まる全5皿に、パン、フルーツ盛り合わせ、食後のコーヒーマグがつけ合計632kcalと牛丼1杯以下のカロリーでした。外食はどうしても高カロリーになりがちですが、この会ではホテルのコース

料理がヘルシーに味わえるとあって、患者さまやご家族に喜ばれているようです。



冷製トマトコンソメと箱根牧場(千歳)モッツアレラチーズのデュエット(70Kcal)



ボークのしゃぶしゃぶ仕立てポン酢をアクセントに(80Kcal)

栄養価の説明や調理のコツなどの解説もあり、食べながら学ぶ実践的な糖尿病教室といった趣でした。今回の参加で得た気づきを生かし、当院が毎月開催している糖尿病教室をより充実させていきます。

札幌ライラック病院は、 機能強化型 在宅療養支援病院です。

機能強化型在宅療養支援病院とは、
下記の要件を満たした病院です。

- ・3名以上の医師が在宅訪問診療に配置
- ・緊急での往診実績が年間10件以上
- ・看取り実績が年間4件以上



日本医療機能評価機構
認定番号 JC1927号

送迎付き 企業健康診断

当院では、企業が定期健診や雇用時健診に利用しやすいよう、一般の健診とは別体系の料金を設定しています。
無料送迎にも応じますので、医事課までお気軽にご相談ください。

例) 基本健診(聴力・視力・尿・貧血・脂質・血糖・肝機能・胸部X線の各検査、身体測定、問診)

企業料金 **4,000円**



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

☎ **011-812-8822**

診療時間 [平 日] 9:00~12:30
13:30~17:00
[土 曜] 9:00~12:00

面会時間 [平 日] 14:00~20:00
[土日祝] 12:00~20:00

URL <http://www.lilac.or.jp>

